

関東大学秋季リーグ戦
バドミントン
1960

会場　国民体育館他

期日　10月26日～31日

主催　関東学生バドミントン連盟

後援　日刊スポーツ新聞社

男子一部　登録選手

1. 法政大学

部長（代理）　長谷川　定

	番号	選手氏名	学年	出身校
監督		秋元　信一		法政大学
主将	1	星野　忠男	経 4	松江商高
主務	2	河原井泉秀	〃	作新学院高
	3	小田　八束	〃	松江商高
	4	川津　増雄	〃	〃
	5	能村　修三	〃	桜ケ丘高
	6	平野　隆	経 3	松江商高
	7	森脇　英裕	〃	〃
	8	富田　豊	〃	〃
	9	井門　鎮雄	〃	今治北高
	10	神林　忠一	〃	石橋高
	11	久保田忠宜	社 3	聖学院高
	12	森　晃一	営 2	奈良商工高
補欠	13	沢田　力	経 2	津幡高
	14	五味川恭仁雄	〃	札幌工高
	15	船山　幹広	〃	山形南高
	16	野津　智	〃	松江商高
	17	稲村　治	〃	前橋商高
	18	高野五十美	〃 1	北越商高

2. 立教大学

部長　宮本馨太郎

	番号	選手氏名	学年	出身校
監督		折井　利彦		立教大学
主将	1	板垣　隆房	経 4	山形商高
主務	2	小栗　和平	〃	浜松北高
	3	永田　精男	〃	新宿高
	4	山下　好一	〃	墨田川高
	5	内藤　成康	〃	都立富士高
	6	安田　元信	〃	東奥義塾高
	7	小宮　好雄	社 3	関学六浦高
	8	長谷川陽一	経 3	瑞陵高
	9	板垣　善憲	経 2	山形南高
	10	佐藤　次元	〃	緑ケ丘高
	11	長谷川武司	社 2	関学六浦高
	12	鈴木　幸春	法 2	聖学院高
補欠	13	東条　義昭	経 1	高松商高
	14	松下　邦彦	〃	都立四商高
	15	滝沢　敏郎	経 4	新潟高
	16	大林　義和	〃	高松高
	17	石川　千明	社 4	郡上高
	18	三雲　晴夫	〃	本郷高

3. 明治大学

部長　小牧　正道

	番号	選手氏名	学年	出身校
監督		内藤　安雄		
主将	1	萩原　郭史	商 4	富士高
主務	2	田部　光雄	政 4	大泉高
	3	加藤　雅一	商 4	富士高
	4	浅黄　達雄	政 4	南葛飾高
	5	大城　祥且	文 4	浪速高
	6	筧　孝一郎	政 4	伊香高
	7	蔵　征広	〃	宇都宮商高
	8	川口　勝義	〃	美唄南高
	9	花島　実	商 4	南葛飾高
	10	鈴木　敏勝	商 3	横浜高
	11	富田　健二	〃	新庄北高
	12	西村　利稔	〃	桐生高
	13	花木　三雄	〃	関学三春高
補欠	14	岡本　弘	商 2	横浜高
	15	三浦　三作	〃	富士高
	16	田上　十六	文 1	都立四商
	17	田村　欽勇	商 1	桐生高
	18	山口　立朗	経	高松第一高

4. 慶応義塾大学

部長　白石　孝

	番号	選手氏名	学年	出身校
監督		岡　道明		慶応大学
主将	1	高井　貞夫	商 4	栄光学園高
主務	2	小杉　良雄	政 4	早稲田高
	3	松田　均	文 4	新潟高
	4	重富信一郎	商 4	慶応高
	5	原野　圭司	経 4	住吉高
	6	中村　智	文 3	関東学院高
	7	山田　善康	〃	瑞陵高
	8	蒔田　靖男	〃	関東学院高
	9	臼井　宣之	経 3	麻布高
	10	宮永　武司	商 2	〃
	11	石神　与喜	文 2	聖学院高
	12	行形　和也	〃	新潟高
補欠	13	山中　武一	商 4	慶応高
	14	瀬戸　征二	経 4	〃
	15	猪浦　建三	法 3	長岡高
	16	田中　進	法 1	慶応高
	17	鈴木　明	政 1	小山台高

5. 中央大学

部長　藤田　通成

	番号	選手氏名	学年	出身校
監督		三須　徳次		中央大学
主将	1	武井　司	経 3	関学三春高
主務	2	戸松　秀雄	商 2	新潟高
	3	白井　宏	法 4	横須賀高
	4	井上　賢二	経 4	平沼高
	5	横山　博	〃	富山中部高
	6	新田　昭雄	法 3	古川高
	7	谷口　昇	経 3	関学三春高
	8	本間　正志	〃	都立三商高
	9	斉藤　裕之	工 3	関学三春高
	10	霧生　嘉知	〃	関学三春高
	11	金森　義弘	法 2	山形南高
	12	斉藤　斉	経 2	関学三春高
補欠	13	阿部　務	〃	新潟商高
	14	永井　宏正	〃	山形南高
	15	永井　司	経 1	山形商高
	16	細川昇三郎	経 2	秋田高
	17	渡部　紘一	経 1	宮城工高
	18	神　至	文 1	青森高

6. 早稲田大学

部長　岩井　秀雄

	番号	選手氏名	学年	出身校
監督		菊地　利明		早稲田大学
主将	1	小林　亘	法 4	新潟高
主務	2	前田　伸生	商 4	小山台高
	3	伊藤　幸博	〃	小石川高
	4	石橋　秀彦	政 4	早大学院
	5	小川　昌之	法 3	麻布学園高
	6	小木順一郎	商 3	新潟高
	7	石井　彰	〃	平沼高
	8	井垣　和太	〃	新宿高
	9	堺　栄一	商 2	麻布学園高
	10	清水　寛	教 2	瑞陵高
	11	七沢　宏光	政 2	富士高
補欠	12	安松　良之	政 1	関学六浦高
	13	小木秀次郎	〃	新潟高
	14	今井　清兼	〃	聖学院高

二　部

1　慶応義塾大学

部長				
	番号	選手氏名	学部年	出身校
監督		岡　道明		慶応大学
主将	1	高井　貞夫	商 4	栄光学園高
主務	2	小杉　良雄	政 4	早稲田高
	3	中村　重子	経 4	慶応女子高
	4	隅田　恭子	文 4	〃
	5	湯浅　良子	商 2	〃
	6	中西　浩子	文 1	〃
	7	瀬戸　陽子	商 1	〃
	8	安川　恭子	文 1	白百合学園
補欠	9	井上　厚子	〃	慶応女子高
	10	中川　純子	〃	南　山　高
	11	藤井　道子	〃 3	慶応女子高

2　成　蹊　大　学

部長				
	番号	選手氏名	学部年	出身校
監督				
主将	1	戸田嘉　昭	3	岡山県立
主務	2	神谷　后子	2	成　蹊　高
	3	前田加代子	4	〃
	4	小林　一恵	2	〃
	5	鈴木　幸子	4	〃

3　日本女子大学

部長　野中　敏雄				
	番号	選手氏名	学部年	出身校
監督				
主将	1	豊島　敏子	家 3	山形西高
主務	2	湧井　紀江	文 3	足利女子高
	3	丹野知江子	〃	日女大附高
	4	村上　和	家 3	盛岡二高
	5	中野　湘子	文 3	日女大附高
	6	岩崎美穂子	〃	〃
	7	夏目　理子	家 2	都立武蔵高
	8	中野　照子	〃	日女大附高

4　千　葉　大　学

部長　鈴木　次郎				
	番号	選手氏名	学部年	出身校
監督		立岩　正孝		
主将	1	大橋　靖子	教 3	千葉二高
主務	2	田辺　千佳	〃	〃
	3	岡　陽子	〃	〃
	4	行木　成子	文 3	〃
	5	信川　ルミ	医 2	日比谷高
	6	高野　芳子	教 2	渋　川　高
補欠	7	小川　利子	〃 3	木更津一高
	8	矢吹　敏子	医 2	両　国　高
	9	高野　紀子	〃	お茶水附高
	10	小野　道子	〃 1	都立西高
	11	小松　忍	〃	両　国　高
	12	山本　治子	薬 1	前橋女高

5　明治学院大学

部長　高橋　賢一				
	番号	選手氏名	学部年	出身校
監督		山本　孝		
主将	1	佐藤　和子	文 3	桜　町　高
主務	2	高井喜由江	〃	翠　嵐　高
	3	恩田　昌子	〃 4	太田女子高
	4	海藤　祥子	〃 2	桜　町　高
補欠	5	勅使河原暁子	〃	双葉学院
	6	金井　洋子	〃	市立銚子高
	7	佐々木淑子	〃 1	

6　津田塾大学

部長　小笠原悦子				
	番号	選手氏名	学部年	出身校
監督				
主将	1	鳥井　紀子	英 3	熊本一高
主務	2	三島　紅子	〃	戸　山　高
	3	和田　敦子	数 4	白　鷗　高
	4	竹内五百子	英 3	酒田東高
	5	堤　螢子	〃	富　士　高
補欠	6	津山　和子	〃	お茶水附高
	7	前川　洋子	数 2	高　松　高
	8	奥村志津子	英 2	

M　E　M　O

◉ 表紙写真提供は、日本スポーツ新聞社

秋季リーグ戦に寄せて

法政大学体育会バドミントン部主将　星　野　忠　男

我々にとって最後のリーグ戦がやって来てしまったのですが、過去四年間全く苦しい事の連続でありました。しかしながら春季リーグ戦に於ては我々待望の“優勝”という栄冠を獲得することが出来た事は生涯の思い出になることであろう。

秋季リーグ戦を迎えるにあたっては“優勝”することのみである。

二連勝を目指して学窓を去る土産としても是非覇業をなしとげたい。

しかし春のようなわけにはゆかず、追われる立場でもあるので一球一球、慎重に戦い、勝利への道を開きたく思うのであります。

立教大学バドミントン部主将　板　垣　隆　房

春季リーグ戦において十一連覇を逃した我部にとって、今季は勿論雪辱戦になる。春の敗戦の原因は種々あるだろうが、結局敗けたという事実に対する解答は、ただ実力不足のみにつきるだろう。何故ならば試合に出て出す力が即ち実力であるからだ。今季を迎えるにあたり、我部では夏休みを返上し実力養成に力を注いだ。その第一の成果が東日本での単複優勝及び上位進出。又八月の全日本における二年生の大活躍による立大勢オンパレードに如実に表れていると思う。しかしリーグ戦は独得の雰囲気があり、二度の大会で示した実力が必ずしも十二分には発揮しうるとは断言出来ないが、反対にそれ以上の力を出す事も考えられる。

他校もリーグ戦に備え十分練習を積んでいるだろうが、我部では練習の少ない不利を気力で補ない、二度と敗戦の苦味を味わいたくない。先輩の築いた十連覇という金字塔を今一度打ちたてるため、今季はその足固めとしてがっちり優勝杯を奪取する積りで居ります。

明治大学バドミントン部主将　萩　原　郭　史

月日の立つのは非常に早いもので既に秋のシーズンとなってしまった。現役選手として最後のリーグ戦を迎えたいま私は、伝統ある我部に育った事を非常な誇に思うと共に、その伝統に恥じない成績を残して学窓を去りたいと部員共々技術の向上に励んでおります。元来我部は傑出した選手のいない事が短所とされてきた。確かにエースのいない事は寂しい、しかし部員同志が我こそ明治のエースであると張合い練習に励んでいる姿を見る時、その寂しさは吹き飛んでしまうのである。

それに今までは何としても上級生に打ち勝つ事の出来なかった下級生が夏期合宿以来、非常な粘りを持ち、その実力も大きく飛躍したので秋期リーグ戦には充分期待に応えてくれるものと確信している。悲哀喜楽に明け暮れした選手生活であったが、残された唯一のチャンスに悔いのないよう私の全精力を注ぎこみ、これを最後に私を御指導下さいました先輩諸兄に心から感謝いたします

慶応義塾体育会バドミントン部主将　高　井　貞　夫

法政大学の初優勝で終った春季リーグ戦以来、この半年の間に数多くの試合が行われ、個人的に素晴しい成績を収めた者、又着々と腕を上げて来た者等が、今度は母校の栄誉を目指して、チームプレー中心のこの秋季リーグ戦に、各自の今までの成果を発揮すべく集う事は、春と同メンバーとはいえ、恐らく試合内容は一段と充実したものになり、数々の熱戦を展開するに違いない。

各大会に二、三校の不参加があり、予測は難しいが、全大会に出場し優秀な成績をあげた立教大学を打倒第一に、チーム和がとれ初優勝に導いた持駒豊富の法政大学を、そして明治大学を、是非この機会に打ち破り、春の雪辱を期したい。

全日本優勝の自信に、新人の抬頭で、チーム内に活気が加わり、強力なスマッシュを武器とする塾は、春季リーグ戦とは違い、最後まで優勝をかけて粘りぬく覚悟である。

中央大学学友会バドミントン部主将　武　井　　司

一部校に仲間入り以来、黙々と五位を確保しておりまして、誠に申し訳けありません。別に最下位だけは免れようと最終日に力を入れて来たのでは御座居ません。昇格以来四位、三位と目標を立て、猛練習を積んで来ましたが、何といっても伝統のない弱身で、実力的には決して劣らない物を持ち合わせながら、その野望は達成されませんでした。

今リーグこそその達成をと、全部員が一丸となって再出発したのですが、思わぬ輿石の死は、精神力、体力を必要とするリーグ戦に非常に痛いものでした。しかしながら輿石の死を無駄にしない為にも、我々は今ここでくじけることなく、練習、トレーニング等によって培かわれたものを十二分に発揮して、一部校として恥しくない試合を行いたいと思います。

早稲田大学バドミントン部主将　小　林　　亘

一部入りをして二度目のリーグ戦を迎えた訳である。早稲田は一部初登場の春季リーグ戦に於いて非常な闘志を持って望んだのであるが、一部の試合は、学生バドミントン界の最高峰に位するだけあり、この我々の闘志をも消沈せしめる程激烈であった。今季はこの経験を多いに生かして行きたいと思う。

過去、数回の優勝を成しとげた立教を始め、それぞれ輝やかしい戦歴を持つ他校と比較して、我々はすべての点で及ばないが、唯一ツこれ等ベテランと対等、或はそれ以上にやって行ける点があると思う。それは“闘志”である。選手一人一人が去年の秋の意慾と結団力を思い出し、実力を発揮することが出来れば、念願のテールエンド脱出も不可能ではなかろう。我々は相手に隙があればいつでも、遠慮なく、つけ込んで行く気力を持っている。